

ユーザーは語る

今回のレポーター
(株)ないす 狭山工場
矢島雅之専務 (埼玉県)

こだわりのワイシャツ 時間200枚支えるダブルセット

「品質と生産性、めいっばい両立できる」

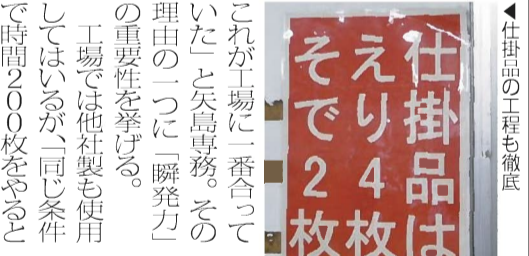
生産性を優先しがちな集中工場と同等以上に品質も追求、特にワイシャツは独自の「こだわり」と尽力を欠かさない「ないす」が、東京都下・埼玉で約100店舗を展開する「NICERクリーニング」グループの(株)ないす(矢島健治社長、埼玉県八潮市)。その狭山工場では、設定料金は低価格でも高料金に見合うクオリティのワイシャツを時間200枚の生産性で実践する。同社の生産性と品質を支えているのは、ワイエイシイ(株)(本社東京都昭島市)のボディ、スリーブ、カフスの「ダブルセット」。「限られた作業面積で最大限の生産性と品質を出せること」から選択した「とは、グループの品質を管理する矢島雅之専務。その理由に「瞬発力」、「面積当たりの生産性」などを挙げて解説してくれた。

「シワが出たまま納品するのはナンセンス。加えて、ワイシャツの品質は大概、パートさん基準が多く、忙しいと見て見ぬフリもある。これでは生産力もバラツキが出る」。工場担当となった矢島は、何となく分からず、作業を熟知するため仕上げの映像や資料を研究。半年から1年間、朝晩パートさんに交じって作業にも没頭。その中で、仕上げ機への着せ方をほじめとする無駄な動作を洗い出し、いかに効率良く、きれいに仕上げるかの改善策を積み上げて現在のスタイルになった、と矢島専務は振り返る。

今日のコンセプトは「いつ、誰が、どこに入っても、同じクオリティ、同じ枚数」。品質基準は例え、まずエリ、カフス、前立ては新品の感触に近づける。イメージは「初めて着た時の着心地感」。衣替えて半年振りに出したシャツもそのまま



ボディとカフスのスイッチは常に自動(右上)



仕掛品の工程も徹底

「忙しい時は一人追加してグッと終わらせられるし、きちんと乾く」。また「時間200枚で包装まで行う」ということは15%の手直し率があると仮定して210枚はやる目安になる。マニュアル化するなかで、パートさんのプレス機セットの動作は、無駄な動きを無くして常に一定が望ましい。加えるなら、スタートボタンすら押させない方が効率良かった。導入したカラーカフス、ボディプレス機には設定秒数でプレスする機構(自動モード)もあった。「これも、選択理由の一つ」。

さらに「省エネ」な点も評価する。他社と比べて熱量を食わない。例えば、常時MAXスピードで動かすとしたら蒸気コストが年間160万円程違ってくる。メンテナンスのしやすさ、パーツの耐久面にも好感持た

「NICERクリーニング」と高級路線の2ブランド「ダブルセット」は、創業から展開しており、店舗数は今年で48年目となる。現在は東京都下・埼玉エリアの1社。本体は昭和40年、東京・小平で創業した(株)ないすの狭山工場。同58年、埼玉進出を機に創業したのが(株)ないす。7年前からワンランク上の高級スタイル、(株)びゅうフラン

「やり方は18、19年前から変わっていません。生産力だけで言うなら、これでもまだ余力を残しているんですよ」とは、矢島専務。工場では仕上げ作業の動作から、ワイシャツの品質基準までを完全マニュアル化しているという。

「瞬発力」と「省エネ」に「面積当たりの生産性」

「エリの「伸び」がもう少し欲しい」

「エリのストレッチがもう少し欲しい」というのは、矢島専務の要望。エリは「伸び」が欲しい。また「スリーブ部分の自然なタック感の表現力をもっと高められたい」とも、消費者には分からないレベルであるが、「他社との違いはこれくらい。もし改良できたら他機種を選ぶ理由はないかな」と語った。余談だが、最近ワイシャツもオシャレ化が進



時間200枚を仕上げるボディ、スリーブ(2台)、カフスの(ダブルセット)



矢島専務(左)とスタッフの面々



5時間作業後のカウンター表示

「矢島式メソッド」は、矢島専務曰く「早くて、楽でいい、そして一定の枚数をあげるための仕組み」。いつも同じやり方だから女性パートさんが疲れないうちも、

「矢島式メソッド」は、矢島専務曰く「早くて、楽でいい、そして一定の枚数をあげるための仕組み」。いつも同じやり方だから女性パートさんが疲れないうちも、

これが、ワイシャツ最速マシンの組み合わせ!!

生産性と品質を両立

時間200枚も対応



ダブルボディプレス YPS-005A

Point
色ムラのない全熱板仕上げ



シングルタックスリーブプレス YPS-403A

Point
半袖の仕上げ力も高い



ダブルカラーカフスプレス YPS-502A

Point
ワイドカラー対応ボタン割れも起きにくい

Y.A.C. Corporation Tokyo, Japan | **ワイエイシイ株式会社** | クリーニングシステム事業部 | 大阪営業所

既存の機械でカバー変えるだけ

細身のシャツプレス時のシワを軽減

品質&生産性がアップ

埼玉県さいたま市のつるやクリーニング(清香)は、榎本香代子社長は、今年で創業81年を迎える老舗クリーニング店だ。4代目となる榎本社長は、古き良きは大切にしつつ、勉強会等にも参加して生の情報を交換したり、新潟県の衣類のお医者さんチャムが展開する「男前クリーニング」などを導入して消費者にPRを図るなど、自社のより一層の発展に努めている。



「ワイエイシイの機械であれば装着可能な新型カバー。細身のシャツでも脇にシワができにくいのが特長」

近頃は昔と違って細身のワイシャツが増えてきたため、従来のカバーの幅では2万〜2万5000回で交換となっていたものが、倍近い4万〜4万5000回の耐久性になった」という。

「実際のつるやクリーニングでも、以前のカバーより交換する回数減った。カバーは換えるのが大変だし、経費削減にもなる」と、新カバーへの評価は上々だ。

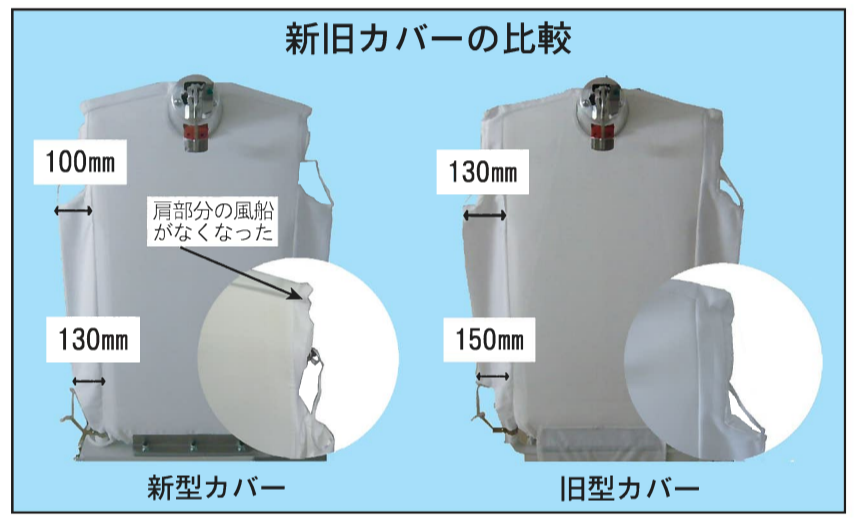
何より、同社の既存のワイシャツプレス機(1996年発売のFDB-002後期型以降)であれば、カバーを変えるだけで品質と生産性の両方を上げることができるといのが最大の特長だ。

工場のスタッフもモチベーションが高く、一体感がある。最近では、スタッフの意見を取り入れ、黒とピンクのユニフォームTシャツを作製、まさにひとつのチームとして動いている。

そのひとつとして、ボディプレス機のカバーを、同社が開発した新カバー(DBC-5206G改)に変えた。同社の従来のカバーとの違いは大きく2つ。一つは、カバーの脇部分の幅を130mmから100mmに、側面部の幅を150mmから130mmにしたこと。これは、「脇がカバーの中で最も裂け

左の表は、某社の4工場が今年の2〜3月、同じ型の機械に、新カバーと従来のカバーをそれぞれ装着して同じ数量のワイシャツを仕上げたとき、どれだけ不良品(某社基準の再仕上げ品)が出たか、また、どの部分の不良が減ったかをまとめたものだ。

これによる「品質や生産性を上げて」というと、どうしても機械や洗剤ばかりに目が行きがちだが、消耗品でもそれが可能だということをお社では提案している。詳しくは同社(TEL:042-546-1164)まで。



ユニフォームTシャツを作製。ピンクのTシャツが榎本社長

従来のカバーと新カバーでの不良枚数の比較

	処理枚数	従来のカバーを使った時の不良枚数 (%)	新カバーを使った時の不良枚数 (%)	改善率
A工場	10306	486 (4.72%)	313 (3.04%)	1.68%
B工場	19634	1373 (6.99%)	594 (3.03%)	3.97%
C工場	9948	1491 (14.99%)	691 (6.95%)	8.04%
D工場	25308	3806 (15.04%)	3040 (12.01%)	3.03%

不良箇所と改善率 (従来のカバー⇒新カバー)

	脇	前面	肩
A工場	10%⇒5%	5%⇒4%	2%⇒2%
B工場	15%⇒10%	7%⇒7%	3%⇒3%
C工場	25%⇒12%	9%⇒7%	5%⇒4%
D工場	20%⇒16%	7%⇒6%	5%⇒5%

Y.A.C.からの新提案!!



新型ボディカバー DBC-5206G改

- 機械はそのまま! (※) カバーだけ変えて品質・生産性アップ! (※) FDB-002後期型以降
- 脇にシワができにくい!
- 耐久性がほぼ倍増! (当社旧カバー比較)

細身シャツに効果あり



その他製品も充実のラインナップ!!



ダブルボディプレス E S型 YPS-005A



トンネルフィニッシャー YTB-360



人体フォーマー YJK-015B



ワイシャツプレス機 YPS-301A TYPE3

ワイエイシイ株式会社

本社 〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-10-6
TEL:042-546-1164 FAX:042-546-8776